

申し合わせ事項 (R7)

【競技運営に関する事項】

- 1 本大会の競技ルールは、次のとおりとする。
 - (1) 現行の日本卓球ルールによる。
 - (2) 本大会の申し合わせ事項による。
 - (3) 1マッチは11ポイント、5ゲーム、3ゲーム先取で行う。
- 2 試合球は、JTAA 公認の Nittaku のホワイトボール、40mm (プラスチック製) とする。
- 3 選手は定められたゼッケンを付け、定められた服装で競技する。ゼッケンは指定のもの (縦15cm 横25cmの布に、姓と校名を書いた関体連規定のもの)、あるいは日本卓球協会のものを使用する。なお、団体戦においては、同じ服装で競技しなければならない。ただし、ショーツ、スカートについては同色系であれば着用できる。連合チームについては、それぞれの学校のユニフォームでもよいものとする。
- 4 選手は、競技の服装でコートに入り挨拶をする。(半袖シャツ及びショーツあるいはスカート)
- 5 競技エリア (1階アリーナ内) では、白以外の服装を着用するものとする。
- 6 団体戦の競技方法については、次のとおりとする。
 - (1) 団体戦は、ブロック毎に数校の予選リーグを行い、その上位による決勝トーナメント戦を行う。
 - (2) 競技に使用するテーブルは2台で行う。進行によっては3～4台使用することもある。
 - (3) 4シングルス1ダブルスとし、ダブルスは1番目に行う。ただし、2・3番の者だけで組むことはできない。
 - (4) 3勝先取とする。ダブルスと他の試合の同時進行はしない。
 - ①3番目までで勝敗が決まったら他の試合をストップし記録を3-0とする。
 - ②リーグ戦については、4・5番の試合で5番が先に終わって勝敗がついても4番の試合は必ず行う。4番の試合で勝敗がついた場合は、5番の試合は途中でストップし記録に残らない。
 - ③決勝トーナメントは、試合の勝敗が決定した段階で、他の途中の試合をストップする。(決勝戦についてはそのゲームまで行う)。また、5番目で勝敗が決定した場合、4番目は記録として残らない。
 - (5) 3人チームで対戦する場合は、2番の欄に斜線を入れ棄権とし、オーダー表提出の際にその旨を進行係に申し出る。(3人チームと対戦する相手チームは、2番の欄に選手名を記入する。)
 - (6) 3人チーム対3人チームの対戦で、2対2となった場合は、ゲーム率・得点率によって勝敗を決定する。ただし、ゲーム率・得点率ともに同点になった場合は、代表者による1ゲームの決定戦を行う。(代表者は、オーダー交換時に選出する。)
 - (7) 3位決定戦は、行わない。
 - (8) 全国大会出場代表決定戦は行う。ただし、全国出場権 (チームに3名以上の全国登録者がいること) のないチームについては行わない。
 - (9) 代表決定戦については4シングルの先に行い、2勝2敗の場合はダブルスを行う。(試合順はSSSSWとし、Wは5番目扱いとする。また、1・2番でダブルスは組むことができないとする)
 - (10) 代表決定戦において、3人チームで対戦する場合は1番目の欄に斜線を入れ棄権とする。オーダー表提出の際にその旨を進行係に申し出る。(3人チームと対戦する相手チームは、1番の欄に選手名を記入する。)
 - (11) トーナメントによる代表決定戦は、試合の勝敗が決定した段階で、他の途中の試合をストップする。
 - (12) 代表決定戦が3校になった場合は、リーグ戦を行う。試合方法は、(9)と同様とする。なお、最初の2試合で代表が決定した場合はそれ以後の試合は行わない。
 - (13) 決勝トーナメントに進出できなかったチームから全国大会出場チームを決める代表決定戦進出チームを決定する方法は次のようにする。

○代表決定戦進出チームは4チームとする。

 - ①予選リーグ3位の中で1勝をしているチーム
 - ②予選リーグ最下位のチームでマッチ率の高いチーム
 - ③予選リーグ最下位の中でゲーム率が高いチーム
 - ④予選リーグ最下位の中で得点率が高いチーム
 - ⑤④が同じ場合は、主催者がくじで決定する。
 - (14) オーダー表の提出については、次のとおりとする。(3枚複写)
 - ①オーダー表はフルネームで記入する。
 - ②第1日目、第1試合のオーダー表は、団体戦組合せ発表後10分以内に進行係へ提出する。
 - ③第2試合以降は、勝敗が決定した後直ちに次のオーダー表を記入し、進行係に提出する。
 - ④第2日目、第1試合のオーダー表は10:25までに進行係へ提出する。(試合の進行状況により変更あり)
 - (15) オーダー表の交換は、両監督により試合前にコート上で行い、選手の読み上げは実施しない。
- 7 個人戦の競技方法については、次のとおりとする。
 - (1) 1部個人戦は、すべてトーナメント方式によって実施する。

- (2) 1部個人戦は、3位決定戦は行わない。
- (3) 全国大会出場代表決定戦は行う。ただし、全国登録をしていない者については行わない。
- (4) 代表決定戦について
 - ①山が4名の場合は、トーナメントを行う。
 - ②山が3名の場合は、リーグ戦を行う。
 - ③片山2名片山4名になった場合は、抽選で3名、3名に分け、リーグ戦を行う。
 - ④片山1名片山4名になった場合は、抽選で2名、3名に分け、リーグ戦を行う。
 - ⑤片山1名片山3名になった場合は、抽選で2名、2名に分け、試合を行う。
 - ⑥両山の合計が3名以下になった場合は、全員でリーグ戦を行う。
 - ⑦2名選ぶ場合は、それぞれの山の1位を代表とする。
 - ⑧3名を選ぶ場合は、それぞれの1位とそれぞれの2位同士対戦の勝者を代表とする。
 - ⑨4名を選ぶ場合は、それぞれの山の1位と2位を代表とする。ただし、片山2名片山3名から選ぶ場合は、各山の最下位同士で対戦し、勝った方が代表となる。
 - ⑩抽選においては、できるだけ同一校同士の対戦にならないように配慮する。
※抽選は当該選手又は監督が行う。
- (5) 2部で7名以下については、1リーグ戦で行う。
- 8 エキシビションシングルス及びオープンシングルスの競技方法は、次のとおりとする。
 - (1) 3名1組のリーグ戦、もしくは4名1組のトーナメント方式とする。
 - (2) 5ゲームズマッチ、3ゲーム先取とする。
- 9 個人戦、団体戦等の組み合わせ方法は別に定める。
- 10 今大会においては、1日目・2日目の第1試合は、9:35に一斉挨拶を行いより競技を開始する。
また、2試合目以降も競技開始時刻より早めにコートに入る。
- 11 審判についてはすべての試合に主審・副審をつける。
- 12 試合前の練習時間は1分間とする。
- 13 時間短縮のため、タイムアウト及び試合終了後の相手校への挨拶はなしとする。
- 14 競技の進行は原則としてタイムテーブルによる。ただし、進行状況によってはタイムテーブルを変更することがあるので、放送等に注意し指示に従うこと。
- 15 リーグ戦順位の決定方法は、日本卓球ルールのリーグ戦規定による。

【競技に関する事項】

- 16 抗議については、個人戦ではその選手に（監督は通訳）、団体戦では監督のみ抗議権を認める。ただし、監督不在の場合は主将に認める。なお、主審または副審等によるルール解釈に関してのみ審判長に抗議することができるが、主審または副審による事実の判定に対して審判長に抗議はできない。
- 17 競技中のアドバイスは、ゲームとゲーム間の休憩時間、あるいは認められた競技の中断時間にのみ認める。
- 18 競技中ベンチに入れるのは次のとおりとする。
 - (1) 団体戦の場合
監督1名・コーチ1名・選手7名以内とする。
 - (2) 個人戦の場合
競技者の他、アドバイザーとして監督またはコーチ及び登録選手（ゼッケンを付けている）のいずれか1名とする。
- 19 個人戦のアドバイザーについて
 - (1) 男子登録の監督・コーチ・選手は男子の試合のみ、女子登録の監督・コーチ・選手は女子の試合のみにアドバイザーとして入れる。
 - (2) 競技者はそのマッチで主審が認めた一人のアドバイザーからのみアドバイスを受けることができる。
 - (3) エキシビションシングルス及びオープンシングルスのアドバイザーは、申し込み登録以外の該当学校関係者でもよい。
- 20 団体戦の監督・コーチ及び個人戦のアドバイザーの移動等について
 - (1) 試合の途中においてもベンチに入ることができる。ただし、団体戦での男女兼任監督及びコーチは、必ずどちらかは試合開始時にベンチに居ること。
 - (2) 試合途中においてもベンチを移動することができる。ただし、移動の際は、競技の妨げにならないように注意すること。
- 21 前年度全国大会優勝による全国大会出場資格のある当該校は、コーチ1名の追加を認める。ただし、個人戦のアドバイザーのみとする。
- 22 本部が認めた手話通訳者は、ベンチの後ろに待機することができ、必要に応じて通訳に参加する。ただし、競技者等にアドバイスをするとはできない。

- 23 促進ルールについては、日本卓球ルールを適用する。（ゲームが開始後10分経過しても終了していない場合には促進ルールが適用される。ただし、10分経過時の両競技者のポイントスコア合計が18ポイントに達した場合には促進ルールは適用されない。）促進ルールが適用された場合には、そのマッチ終了まで促進ルールで行われる。

【用具等に関する事項】

- 24 ラケット及びラバーは、JTAA マークと指定業者名（または商標）がなければならない。ラケットの両面に貼るラバーは、異なった色（日本卓球ルールブックに定められた配色）で、貼り方はラケットの外周いっぱいまで、しかもはみ出さないようにする。なお、ラバーの張り替えは、日本卓球協会が公認した接着剤を使用すること。
- 25 競技中にラケットやラバーが破損した場合は、主審にその旨申し出た後、他のラケットと取り替えて使用する。ラバー張り替えの可否については、審判長の指示に従う。

【その他】

- 26 棄権及び団体戦登録変更、プログラム訂正等がある場合について
- （1）会場開館時の受付に必ず連絡すること。ただし、団体戦登録変更は監督会議前まで可とする。
- （2）個人戦で棄権が出た場合、棄権理由が出席停止扱い（学校保健安全法）であれば、選手変更を認める。
- 27 会場から外出する場合は、責任者もしくはその代行者が会場に残り、放送等に注意して、競技進行に支障をきたすことのないようにする。
- 28 競技用具、雑巾以外の物をコートに持ち込まない。なお、飲料水はふたのできる容器を使用し、コート以外の場所で飲むこととする。雑巾については、必要であれば各自用意して主審の横に置くこと。（飲み物、雑巾についてはその体育館の使用規定に従う）
- 29 ベンチの位置は、本部に向かって右側に数字の若い番号のチーム・選手が入ることとする。

【全国大会出場資格に関する事項】

- 30 全国大会出場について以下のとおりとする。
- （1）1部については、個人10名、団体5チームに全国大会出場の認定書を授与する。ただし、前年度全国大会個人優勝者（スーパーシード選手）がいる場合は、スーパーシード選手を含めた11名に全国大会出場の認定書を授与する。
- （2）2部については、参加者が4名以下の場合は、全員に認定書を授与する。5名以上の場合は、次の表のとおり的人数に認定書を授与する。

関東大会出場者数（エントリー数） ※全国大会有資格者はエントリー数に含めない。	5名	6名	7名	8名	9名	10名	11名	12名以上
全国大会出場者数	4名	5名	6名	6名	7名	8名	9名	10名

- （3）補欠については、個人2名、チーム2チームとする。ただし、補欠順位等の決定については以下の通りとする。
- 団体戦
- ①代表決定戦での勝敗で補欠順位が決まらない場合は抽選によって決定する。
- ②予選リーグから補欠校を選出する場合には各リーグ3位の抽選によって決定する。
- ③抽選は、チームのキャプテンまたは監督が行う。
- 個人戦
- ①補欠順位は該当選手または監督の抽選によって決定する。
- ②代表決定戦の勝敗（勝ち点）で補欠が決まらない場合は抽選によって決定する。
- ※補欠（補欠順位）を決めるための試合は行わない。
- （4）補欠の選手と学校は、全国大会に係るプログラム編成会議4日前まで権利を有する。（全国大会出場資格を持つ個人及び学校が辞退した場合のみとする。）